# 都市再生整備計画（第6回変更）

## 大野城（おおのじょう）地区

福岡（ふくおか）県　大野城（おおのじょう）市

平成30年11月13日

# 都市再生整備計画の目標及び計画期間

| 都道府県名 | 福岡県 | 市町村名 | 大野城市 | 地区名 | 大野城地区 | 面積 | 562 ha |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 計画期間 | 平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 | 交付期間 | 平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 |
|---|---|---|---|

## 目標

大目標　歴史資源など地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりを図る。
目標1　歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。
目標2　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。

## 目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【経緯】
・福岡市の南に隣接する大野城市は、2本の鉄道（JR鹿児島本線・西鉄天神大牟田線）で福岡市の都心と直結しているなど、交通の便に恵まれた立地条件にあることから、住宅都市（ベッドタウン）として発展してきた。昭和40年代から50年代にかけて急激な人口増加を経験し、住民間の交流の希薄化が行政課題として顕在化したことから、目指すべき都市像を「コミュニティ都市」として、住民間の交流の創出・活性化をまちづくりの重点施策としてきた。

【現況】
・現在も、人口は増加傾向にあり、また、毎年、人口の約6.5%が転入・転出により入れ替わっている。そのため、住民間の交流の創出・活性化がまちづくりの重点施策であることに変わりなく、住民交流の基盤となる市民の郷土意識や郷土理解を深めるための取り組みが求められている。
・大野城市は、国から特別史跡に指定されている「大野城跡」と「水城跡」のほか、国から史跡に指定されている「牛頸須恵器窯跡」が存在するなど、豊かな歴史資源に恵まれている。このような歴史資源を活用して、住民交流の基盤となる市民の郷土意識や郷土理解を高めるため、歴史的文化財の保護・活用のための施設整備や、史跡へのアクセスの利便性と交流の場の整備が求められている。
・大野城市では、歴史資源をはじめとする地域資源を観光開発に活用するための取り組みを進めているところであり、住民間の交流及び市外からの交流人口の拡大を図り、都市のにぎわいを創出するため、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすい都市機能の整備が求められている。

課題

・歴史資源を保護し、情報発信・住民交流促進に活用するための拠点施設が存在しないことから、市民の郷土理解及び郷土意識を高めるための効果的な取り組みが行えない。
・史跡など、地域資源を活用したくつろぎと交流の場の整備が不十分であることから、住民間の交流を促進するための効果的な取り組みが行えない。
・情報板及び道路の整備が不十分であり、史跡など、市内に点在する地域資源を、市民が安心して安全に回遊することができない。

将来ビジョン（中長期）

【第5次総合計画後期基本計画】（平成26年3月策定）
・「まちの魅力向上」を目的とした取り組みとして、歴史・こども・観光をキーワードに、世代を超えた交流や、市民活動が行える「（仮称）大野城心のふるさと館」の整備が位置付けられている。
・「新しいまちのかたちを見据えたにぎわいとやさしさをもったまちづくり」を目的とした取り組みとして、駅などを基点として、歩きながら地域の自然・文化・歴史などを楽しめる散策路「大野城トレイル」の整備が位置付けられている。
・「文化遺産の保存と活用」を目的とした取り組みとして、牛頸須恵器窯跡整備活用計画に基づく整備と活用の推進が位置付けられている。

【大野城市都市計画マスタープラン】（平成24年3月改訂）
・道路の整備において、利便性や防災機能を向上させる生活道路の整備が位置付けられている。
・公園・緑地の整備において、市民ニーズに対応した公園づくりが位置付けられている。
・歴史環境の保全・整備において、歴史的文化財の保護、活用にかかる施設の整備と、牛頸須恵器窯跡とその周辺環境の保全が位置付けられている。

## 目標を定量化する指標

| 指　標 | 単　位 | 定　義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数 | 回（人） | 市または市内観光推進団体が主催する、国指定史跡等（大野城跡、水城跡、牛頸須恵器窯跡、その他）の歴史資源や地域資源でのイベントの開催回数と集客人数を指標とする。 | ・住民間の交流促進の効果を測る。<br>・市内史跡等でのイベントの回数及び集客人数により評価する。<br>（従前値は、平成25年度の実績値とする。） | 10回<br>（1，772人） | 平成25年度 | 17回<br>（3，000人） | 平成31年度 |
| 地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価 | 点 | 第5次大野城市総合計画後期基本計画において目標に掲げられている、地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度について、市民アンケートを実施し、その評価点を指標とする。（「十分達成されている（5点）」から「ほとんど達成されていない（1点）」までの5段階評価） | ・地域の魅力向上をめざすまちづくりの効果を測る。<br>・市民アンケートの結果により達成度を評価する。<br>（従前値は、平成25年度に実施した市民アンケートの結果とする。） | 3．20点 | 平成25年度 | 3．29点 | 平成31年度 |
| | | | | | | | |

## 都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
| --- | --- |
| ○整備方針１　歴史資源など地域資源を学習、体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。<br>・博物館機能を併せ持つ地域交流センターを整備し、歴史資源など地域資源を学習・体験する交流事業の拠点施設として活用することにより、住民間の交流を促進させる。<br>・歩きながら本市の史跡や自然、文化に触れることができる「大野城トレイル」を整備し、地域資源を学習・体験する活動を通じて、ふるさと意識を醸成し住民間交流の促進を目指す。<br>・資源など地域資源に市民を誘うため、サインや路面標示の整備によりアクセスの利便性を向上させるとともに、現地に学習、体験ができる活動の場を整備することにより、住民間の交流を促進させる。 | ・（仮称）大野城心のふるさと館整備【高次都市施設】【地域創造支援事業】<br>・小水城跡広場整備【地域生活基盤施設】<br>・大野城トレイル（サイン）整備【地域生活基盤施設】<br>・（仮称）善一田古墳公園整備【公園】 |
| ○整備方針２　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。<br>・利便性や防災機能向上のため、生活道路の歩行空間を整備することにより、市民が安心して安全に生活できる交通体系を確保する。<br>・市民にニーズに対応したくつろぎの空間として公園を整備することにより、快適で暮らしやすい生活環境を確保する。 | ・白木原・水城駅線整備【道路】<br>・乙金公園整備【公園】 |
| | |

その他

## 様式3　目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

| 交付対象事業費 | 2,698 | 交付限度額 | 982.7 | 国費率 | 0.364 |
|---|---|---|---|---|---|

（金額の単位は百万円）

基幹事業

| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直／間 | 規模 | （参考）事業期間 開始年度 | （参考）事業期間 終了年度 | 交付期間内事業期間 開始年度 | 交付期間内事業期間 終了年度 | （参考）全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | 費用便益比 B／C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路 | | 白木原・水城駅線 | 大野城市 | 直 | L=50m | H27 | H30 | H27 | H30 | 30 | 30 | 30 | 0 | 30 | ー |
| 公園 | | （仮称）善一田古墳公園 | 大野城市 | 直 | A=11,000㎡ | H27 | H30 | H27 | H30 | 440 | 440 | 440 | 0 | 440 | ー |
| 公園 | | 乙金公園 | 大野城市 | 直 | A=490㎡ | H29 | H31 | H29 | H31 | 16 | 16 | 16 | 0 | 16 | ー |
| 地域生活基盤施設 | 広場 | 小水城跡広場 | 大野城市 | 直 | A=5,000㎡ | H28 | H29 | H28 | H29 | 55 | 55 | 55 | 0 | 55 | ー |
| 地域生活基盤施設 | 情報版（サイン） | 大野城トレイルサイン | 大野城市 | 直 | N=70 | H27 | H28 | H27 | H28 | 52 | 52 | 52 | 0 | 52 | ー |
| 高次都市施設 | 地域交流センター | （仮称）大野城心のふるさと館 | 大野城市 | 直 | A=3,262㎡ | H28 | H29 | H28 | H29 | 1,176 | 1,176 | 1,176 | 0 | 1,176 | ー |
| 合計 | | | | | | | | | | 1,769 | 1,769 | 1,769 | 0 | 1,769 | …A |

提案事業（継続地区の場合のみ記載）

| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直／間 | 規模 | （参考）事業期間 開始年度 | （参考）事業期間 終了年度 | 交付期間内事業期間 開始年度 | 交付期間内事業期間 終了年度 | （参考）全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域創造支援事業 | （仮称）大野城心のふるさと館（博物 | （仮称）大野城心のふるさと館 | 大野城市 | 直 | A=3,262㎡ | H28 | H29 | H28 | H29 | 924 | 924 | 924 | 0 | 924 |
| 事業活用調査 | 事業効果分析業務 | | 大野城市 | 直 | 分析調査一式 | H31 | H31 | H31 | H31 | 5 | 5 | 5 | 0 | 5 |
| まちづくり活動推進事業 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 929 | 929 | 929 | 0 | 929 …B |
| | | | | | | | | | | | | | 合計(A+B) | 2,698 |

（参考）関連事業

| 事業 | 事業箇所名 | 事業主体 | 所管省庁名 | 規模 | （いずれかに○） 直轄 | 補助 | 地方単独 | 民間 | 事業期間 開始年度 | 終了年度 | 全体事業費 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | 0 |

交付金の執行状況

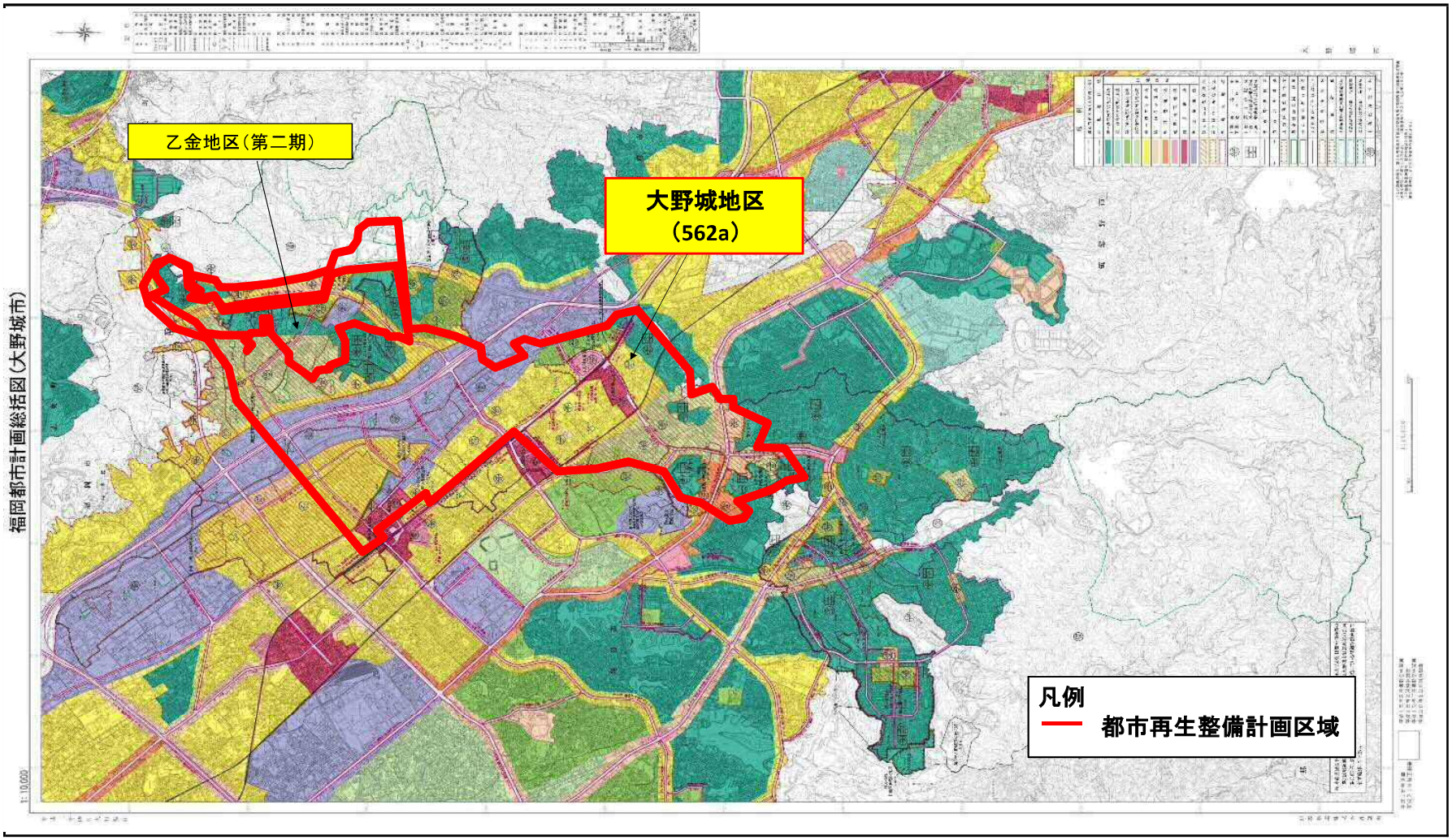
（単位：百万円）

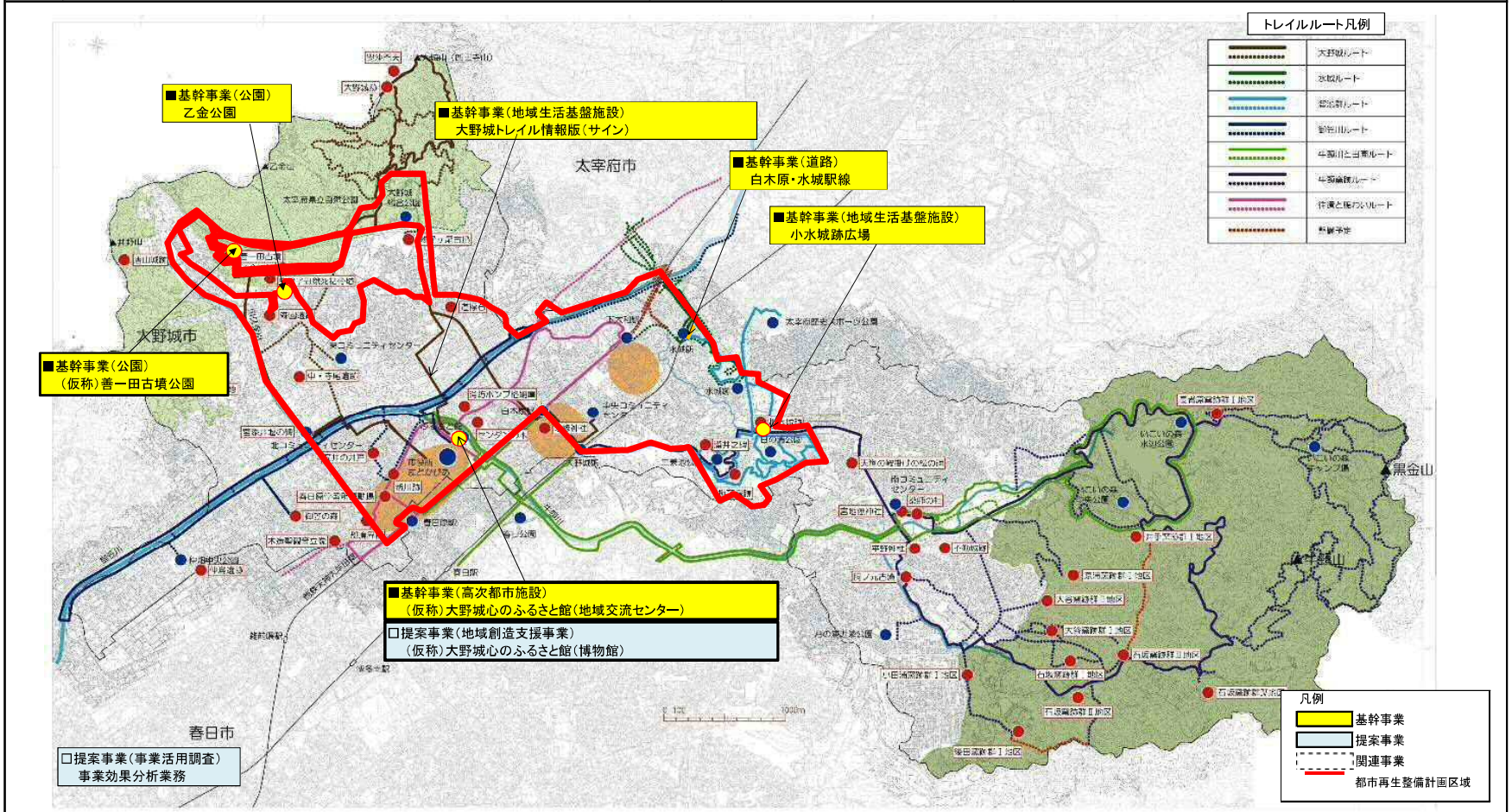
| | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|---|---|---|---|---|---|
| 配分額<br>(a) | 144.5 | 331.9 | 444.9 | 37.5 | |
| 計画別流用<br>増△減額<br>(b) | △ 46.0 | 0.0 | 20.3 | 0.0 | |
| 交付額<br>(c=a+b) | 98.5 | 331.9 | 465.2 | 37.5 | |
| 前年度からの繰越額<br>(d) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 支払済額<br>(e) | 98.5 | 324.9 | 465.2 | 37.5 | |
| 翌年度繰越額<br>(f) | 0.0 | 7.0 | 0.0 | 0.0 | |
| うち未契約繰越額<br>(g) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 不用額<br>(h = c+d-e-f) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 未契約繰越＋不用率<br>(h = (g+h)/(c+d)) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| 未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由 | － | － | － | | |

※　平成２６年度以降の各年度の決算額を記載。

都市再生整備計画の区域

| 大野城地区（福岡県大野城市） | 面積 | 562 ha | 区域 | 曙町の一部・旭ヶ丘の一部・大池・大城の一部・乙金の一部・乙金台・乙金東の一部・上大利・川久保・瓦田の一部・栄町の一部・雑餉隈町の一部・下大利・下大利団地・白木原の一部・中央・筒井・中の一部・錦町・東大利・御笠川の一部・瑞穂町の一部・南大利の一部・山田の一部 |
|---|---|---|---|---|



# 大野城地区（福岡県大野城市） 整備方針概要図

| 目標 | 代表的な指標 | |
|---|---|---|
| 大目標　歴史資源など地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりを図る。<br>目標1　歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。<br>目標2　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。 | 市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数（　回・人　） | 10回・1,772人　（H25年度）　→　17回・3,000人　（H31年度） |
| | 地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価（　点　） | 3.20点　（H25年度）　→　3.29点　（H31年度） |